

条件付き MRI 対応ペースメーカーにおける MRI 撮影体制の構築

【背景及び目的】2012年10月より条件付きMRI対応ペースメーカー(PM)の販売が開始され、当院でも導入を開始した。PMのMRI撮影においては臨床工学技士のみならず、医師、看護師、放射線技師を始めとして他職種との連携が必須となる。そこで今回それぞれの専門分野における役割分担を行い、運用方法を検討したので報告する。【対象】対象機種：Medtronic社製PM Advisa MRI 【結果】・院内全体に条件付きMRI対応PM販売開始情報の伝達、更に循環器関連スタッフに対するPM説明会を施行し情報共有を図った。・PM識別(MRI対応)においては、電子カルテ上にマーカーを作成・MRIカードのスキャナを施行した。・MRIオーダーは、循環器内科医のみ可能とし、オーダーフォーム内の撮影条件を満たしている事を確認しフォームを入力。同時に臨床工学技士、放射線技師に連絡する事とした。臨床工学技士はデバイス情報の再確認、MRI撮影時チェックリスト記入。放射線技師は、予約枠の調整、撮影機器の確認を行い、オーダー完了とした。【考察】現在PMは様々な機種が混在し、MRI対応機種又は対応機種であっても対応条件が異なる機種も存在しスクリーニングが重要となる。これらを安全に施行する為には、各職種のみでは困難であり、他職種との連携を図り管理体制を徹底する事が重要であると考えられる。【結語】他職種と連携し、管理体制を構築する事により、条件付きMRI対応ペースメーカーの運用方法を確立する事ができた。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号